

多摩川 河川水辺の国勢調査 【鳥類調査 位置図】

調査年度：平成16年度 (2004年度)



- : 調査地点 (この番号が、次の確認種リストの調査地点番号と対応しています。)
- : 多摩川流域 (降った雨や雪の水が、多摩川に集まってくる範囲です。)
- ⇄ : 多摩川水系の河川。太く示した河川は、京浜河川事務所が管理しており、調査は管理区域内で実施しています。
- 【道路】 — : 国道、 — : 有料道路 【鉄道】 — : JR線、 — : その他の鉄道

多摩川 河川水辺の国勢調査【鳥類調査 確認種リスト】調査年度:平成16年度(2004年度)

No	目名	科名	種名	学名	重要種				特定外来生物等		多摩川								浅川		
					種の保存法	環境省RL	東京都RL				神奈川RDB	特定	要注意	調査地点番号							
							区部	北多摩	南多摩	西多摩											
105	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>																	
106	スズメ目	カラス科	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>																	
合計種類数 : 14目33科106種																					

【表の見方】各種が確認された調査地点には、“ ”を示しました。(調査地点の番号は、調査位置図の番号と対応しています。)

なお、下記の重要種に該当する種のうち、環境省RLのカテゴリーが「VU:絶滅危惧 類」以上の種および猛禽類については、保全上の理由から確認された調査地点を示していませんが、いずれかの調査地点で確認されています。

重要種・特定外来生物等選定基準

【重要種】

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」で“国内希少野生動植物種”に指定されている種。

環境省RL(レッドリスト)：環境省(2006)「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト(鳥類)」において、以下のカテゴリーに選定されている種。

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 類(CR:絶滅危惧 A類、EN:絶滅危惧 B類)、VU:絶滅危惧 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅の恐れのある地域個体群

東京都RL(レッドリスト)：東京都(2010)「東京都の保全重要な野生生物種[本土部]2010年版(東京都)」において、以下のカテゴリーに選定されている種。4つのエリア(区部、北多摩、南多摩、西多摩)別に選定されている。

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 類(CR:絶滅危惧 A類、EN:絶滅危惧 B類)、VU:絶滅危惧 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、留:留意種

神奈川RDB(レッドデータブック)：神奈川県生命の星・地球博物館(2006)「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」において、以下のカテゴリーに選定されている種。

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 類、CR:絶滅危惧 A類、EN:絶滅危惧 B類、VU:絶滅危惧 類、NT:準絶滅危惧、減:減少種、希:希少種、要注:要注意種、注:注目種、

DD:情報不足、DD(A):情報不足A、DD(B):情報不足B、不明:不明種、LP:絶滅の恐れのある地域個体群

繁:繁殖期、非繁:非繁殖期

なお、重要種には、上記に加えて「文化財保護法」等で指定される“天然記念物”に該当する種も含まれますが、本調査の調査地点では確認されていません。

【特定外来生物等】特定：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づき、生態系・人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす(またはその恐れがある)生物として指定されている種。

要注意：環境省により、外来生物法による規制とは別に、「生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取り扱いについて理解と協力をお願いするもの」として選定された種。

「No.」欄が空白になっている行がありますが、これは確認された生物の“種名が判別できなかったため、科や属等の分類群のみを記録した”ものです。これらは原則として、合計種類数を計数する際、カウントしていません。

なお、河川水辺の国勢調査結果は、全国的に統一されたマニュアルに基づき、集計等のとりまとめを行っています。

マニュアルは「水情報国土データ管理センター(<http://www5.river.go.jp/>)」で公開されています。(河川環境データベース>河川版>河川水辺の国勢調査ツール>平成18年度河川水辺の国勢調査マニュアル基礎調査編[河川版]を参照してください。)